第 349 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

人生の根幹 ～ 視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、時代を読む　～

2025 年 8 月 29 日 筆者は、病理医としての定例の病理組織診断業務を行う。 【『病理学』＝『形態』＆ 『起源』＆『進展』を追求する学問分野である】＆【病理組織診断 ＝『風貌を診て、心まで読む ＝ 人生の根幹を追求する』である。 顕微鏡観察は『がん哲学 ＝ 癌細胞の病理と人間社会の病理 ＝ 生物学と人間社会』の原点でもある。 病理学者が『がん哲学外来』を創設出来たのは ここにあろう！】。

8 月 30 日 早稲田大学エクステンションセンター(早稲田校 新宿区)での講座『がんと生きる哲学』(10:40～12:10)に赴く。 本講座は【『ジャンル 人間の探求：テキスト：樋野興夫『新渡戸稲造 壁を破る言葉: 逆境に立ち向かう者へ 40 のメッセージ』（三笠書房）】である。

その後、南原繁(1889-1974)研究会『第 14 回夏期研究発表会（日本教育会館に於いて)である(13:00～17:15)。筆者は、南原繁研究会代表として閉会挨拶を依頼されている。研究発表会終了後には、懇親会（17:30～19:30）が予定されている。 筆者は、2004 年にスタートした南原繁研究会【初代代表、鴨下重彦 先生（1934 年-2011 年、東京大学名誉教授、国立国際医療センター名誉総長）、第２代代表、加藤節 先生(成蹊大学名誉教授)】の 3 代目の代表を 2019 年『南原繁生誕 130 周年』を祝し、仰せつかった。 筆者の読書遍歴は【内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造(1862-1933)・南原繁・矢内原忠雄（1893-1961）】である。

この度、2024 年の【南原繁(1889-1974)シンポジウム、セミナー、夏期研究発表会等で発表された内容】をベースとして、【『南原繁没後 50 年・南原繁研究会発足 20 年』：『戦争と平和――南原繁再考（その 2）』（横濱大気堂、2025 年 7 月 30 日）】が製本された(添付)。 筆者は、『まえがき』に【南原繁が東大総長時代の法学部と医学部の学生であった二人の恩師から、南原繁の風貌、人となりをうかがった。 南原繁は『高度な専門知識と幅広い教養』を兼ね備え『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 具眼の士』】と記述した。 一見『理解不能モード』である複雑な現代社会・混沌の中での『一筋の光』となる時代的要請を感ずる。

南原繁没後五〇年・南原繁研究会発足二〇年

戦争と平和

―南原繁再考（その二）―

南原繁研究会編

〔南原繁シンポジウム講演〕

なぜ国際法「以後」か ― 不確実性の時代に考える ―

バーゼル大学客員教授　最上　敏樹

〔2024年東京大学ホームカミングデイ講演〕

南原政治哲学が問いかけるもの ― 統合と分断 ―

成蹊大学名誉教授・南原繁研究会顧問　加藤　節

南原繁の宗教観について

南原繁研究会幹事　山口　周三

発行　横浜大気堂